



Japan
Food
Research
Laboratories

第 11056138001-02 号
2011年(平成23年)07月06日

試験報告書

依頼者 株式会社 コンフォートジャパン

財団法人

日本食品分析センター

東京都渋谷区元代々木町52番1号



検 体 HB・セラミックス

表 題 脱臭効果試験

2011年(平成23年)06月20日当センターに提出された上記検体について試験した結果をご報告いたします。

脱臭効果試験

1 依頼者

株式会社 コンフォートジャパン

2 検 体

HB・セラミックス

3 試験概要

検体についてトリメチルアミン及びメチルメルカプタンの脱臭効果をガス検知管法により試験した。

4 試験結果

試験結果を表-1及び2並びに図-1及び2に示した。

表-1 トリメチルアミンの試験結果

(単位：ppm)

試料区分	経過時間 (min)				
	10	30	60	120	180
検体	38	14	7	3	2
空試験	70	70	70	70	70

初期ガス濃度：約70 ppm

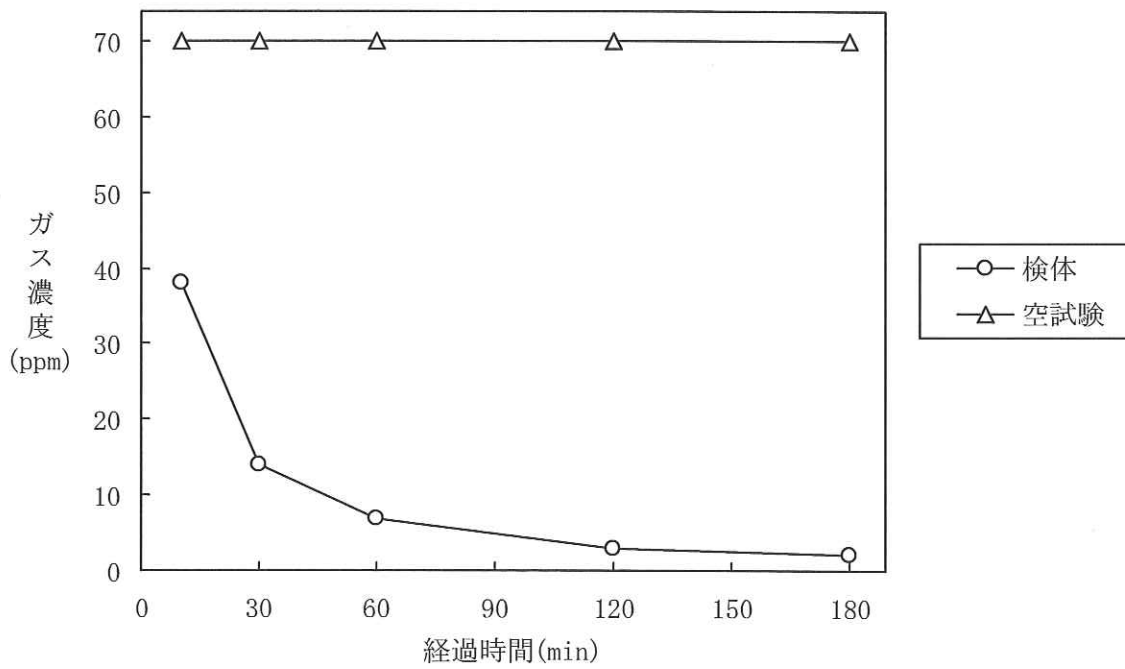


図-1 トリメチルアミンの試験結果

表-2 メチルメルカプタンの試験結果

(単位：ppm)

試料区分	経過時間 (min)		
	10	30	60
検体	28	6	<1
空試験	70	70	70

初期ガス濃度：約70 ppm

<1：定量下限(1 ppm)未満

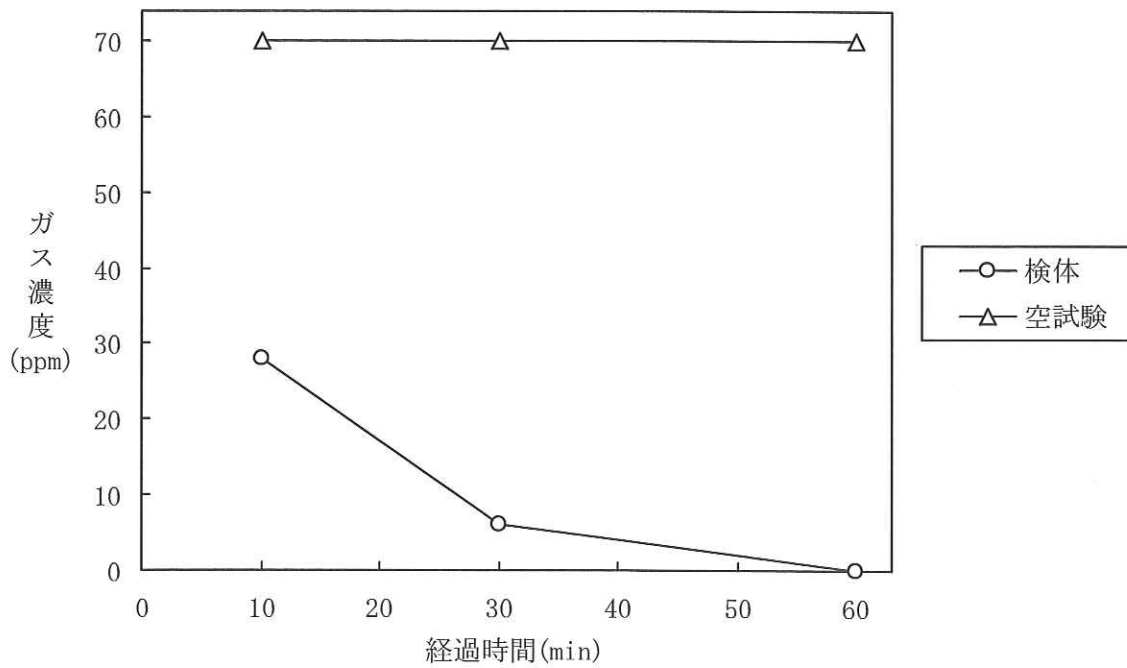


図-2 メチルメルカプタンの試験結果

5 試験方法

1) 試薬及び器具

におい袋(35 cm×50 cm)[アラム株式会社]

トリメチルアミン：トリメチルアミン水溶液(28%) [東京化成工業株式会社]から発生させたガスを用いた。

メチルメルカプタン：メチルメルカプタンナトリウム溶液(15%) [小宗化学薬品株式会社]に希硫酸を加えて発生させたガスを用いた。

ガス検知管[株式会社 ガステック]

2) 操作

検体をにおい袋に入れ、ヒートシールを施した後、空気9 Lを封入し、設定したガス濃度となるように試験対象ガスを添加した。これを静置し、経過時間ごとに袋内のガス濃度をガス検知管を用いて測定した。また、検体を入れずに同様な操作をしたものを空試験とした。

試験条件を表-3に示した。

表-3 試験条件

検体使用量	4 g
試験対象ガス (初期ガス濃度)	トリメチルアミン(約70 ppm) メチルメルカプタン(約70 ppm)
温度条件	室温
測定時間	10, 30, 60, 120及び180分 (ただし、測定値が定量下限未満になった時点で終了)

以 上